

第9分科会

若手研究者からみた「大学改革」

——アフターコロナの時代を見据えて——

分科会概要：

1990年代以降、文部科学省が主導する「大学改革」が急速に進められてきた。現在も変化の途上にある大学の教育現場において、「これから大学はどうなっていくのか」を最も危機感を持って受け止めざるを得ないのが、いわゆる「若手」と呼ばれる30-40代の大学教員・研究者である。この傾向は2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大によってオンライン授業や対面授業とのハイブリッド等が「新常態」化していく中、より強くなってきている。それはこの世代が、大学改革や大学教育の最前線で、内外から新しい状況への対応や実践を最も期待される層だからである。

そこで本分科会では、昨今のコロナ禍の影響を踏まえ、この世代にとっての今後の大学のあり方や大学教育のより望ましい方向性について、批判的に検討することを通じ、アフターコロナの「大学改革」について考えていく。そしてそれにより、アフターコロナの時代に社会から求められる、大学の理念や存在意義についても問いかけていきたい。

<プログラム>

10:00 趣旨説明 佛教大学 歴史学部 准教授 水田 大紀 氏

10:05 講演 1. 千葉大学 国際教養学部 講師 崎山 直樹 氏

10:40 講演 2. 大阪成蹊大学 経営学部 准教授 成瀬 尚志 氏

11:15 講演 3. 北海道教育大学 教育学部旭川校 准教授 古川 雄嗣 氏

11:45 休憩

11:50 質疑応答